

令和8年度 学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（ユニバーサル公演）
出演希望調書 No.1（共通）

オレンジ色

入力必須項目です。

みどり色

選択必須項目です。

制作団体名	株式会社アンエンターテインメント
公演団体名	大蔵流狂言

分野・種目

※応募する企画の主たる分野・種目を1つ選択してください。

分野・種目については、募集要領4ページを御参照ください。

分野	種目
伝統芸能	歌舞伎・能楽・人形浄瑠璃・邦楽・邦舞・演芸

取り組み（②に該当する場合は○を付してください。）

該当	取り組み
○	①字幕や音声ガイダンス等を設置するだけでなく、障害のある子供たちも主体的に芸術鑑賞・体験ができるよう工夫された取り組み
	②障害のある芸術家が活躍する取り組み

②に該当する場合、芸術家が抱える障害の種類

--

※採択を受けた場合、実施へ向けた調整に当たり、参考とさせていただきます。

応募する区分

該当	区分
○	《Pタイプ》 公演を中心とする企画
	《Wタイプ》 ワークショップを中心とする企画 ※ ワークショップの一環として実演を披露するものを含みます。

実施可能期間 ※原則として令和8年6月1日（月）～令和9年1月29日（金）まで

実施 可能 期間	○	全期間：令和8年6月1日 ～ 令和9年1月29日	※夏休み、年末年始を除く
		～	～
		～	～
		～	～

連日公演の可否	可	←選択してください。
---------	---	------------

実施可能地域 ※実施可能な地域名の前に○を付してください。（複数選択可）

該当	地域	都道府県	都道府県を限定される場合は こちらに御入力ください。
○	限定なし		
	北海道	北海道	
	東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川	
	北関東・甲信	茨城、栃木、群馬、山梨、長野	
	北陸	新潟、富山、石川、福井	
	東海	岐阜、静岡、愛知、三重	
	近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
	中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
	四国	徳島、香川、愛媛、高知	
	九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
	沖縄	沖縄	

団体の概要

【制作団体について】

ふりがな	かぶしきかいしゃ あんえんたーていめんと		
制作団体名	株式会社アンエンターテイメント		
代表者職／氏名	代表取締役 高久照敏		
制作団体所在地	〒 104-0061		
	東京都中央区銀座7-13-6 サガミビル2階		
制作団体代表電話番号	03-4500-0242		
制作団体設立年月	2002	年	10 月
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 高久照敏 経理担当 宮田幸子	当団体の活動に賛同し、伝統芸能に携わる芸術家および関係者。構成員の過半数以上の認可により加入	
事務体制：事務（制作専任担当者の有無）		専任	
Webサイト等URL	https://www.wa-league.com/		
本事業担当者名	大藏基誠	本件連絡先：電話番号	03-4500-0242
メールアドレス	school.an.sai@gmail.com		
経理処理等の監査担当の有無		有	
経理責任者名	宮田幸子		

【公演団体について】

ふりがな	おおくらりゅう きょうげん
公演団体名	大蔵流狂言
代表者職／氏名	能楽師大蔵流狂言方 大蔵基誠
Webサイト等URL	https://www.kyogen.info/

特別支援学校等における活動実績や障害を持った芸術家の活動を拡げる公演等の活動実績

平成28年、二階堂養護学校（天理市）にて「附子」「柿山伏」の本公演と体験ワークショップを実施。

平成29年、東大寺整枝園（奈良市）にて狂言体験ワークショップを実施。

平成28年、七条養護学校（奈良市）・帯広盲学校（北海道帯広市）にて「附子」「柿山伏」の本公演と体験ワークショップを実施。

令和2年度 文化芸術による子供育成事業～巡回公演事業～

山梨県立やまびこ支援学校

令和4年度 文化芸術による子供育成推進事業～巡回公演事業～

茨城県立境特別支援学校

令和5年度 文化芸術による子供育成推進事業～巡回公演事業～

千葉県立松戸特別支援学校、神奈川県立麻生養護学校

令和6年度 文化芸術による子供育成推進事業～ユニバーサル公演事業

東京都立田無特別支援学校

令和7年度 文化芸術による子供育成推進事業～ユニバーサル公演事業

静岡県立伊豆の国特別支援学校

令和8年度 学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（ユニバーサル公演）

出演希望調書 No.2（Pタイプ）

オレンジ色	入力必須項目です。		みどり色	選択必須項目です。		
制作団体名	株式会社アンエンターテイメント					
企画名	身体で感じる伝統芸能「大藏流子ども狂言」					
主な対象学年 <small>※複数選択は可能ですが企画内容と趣旨が異なるようお願いいたします。</small>	<input type="radio"/>	小学校：低学年	<input type="radio"/>	小学校：中学年	<input type="radio"/>	小学校：高学年
	<input type="radio"/>	中学校・中等教育学校（前期課程）				
	<input type="radio"/>	特別支援：小学部	<input type="radio"/>	特別支援：中学部		
児童・生徒の鑑賞・体験可能人数の目安		1回の人数		回数		
ワークショップ ※3回まで		100人		2		
本公演 ※1校1回まで		600人		まで対応可		
企画の動画等の資料		PW				
URL	https://youtu.be/g65D4RJIWWU					

本公演について

主な演目		「附子」、「柿山伏」「菌（くさびら）」	
原作／作曲		古典芸能	
脚本		古典芸能	
演出／振付等		古典芸能	
公演時間 (分)	著作権	<input type="radio"/>	制作団体が所有
		<input checked="" type="radio"/>	制作団体以外が所有する事項が含まれる
90分		<input checked="" type="radio"/>	（制作団体以外が所有する事項が含まれる場合）許諾の有無
演目概要		① 挨拶・「狂言ってなあに？」・「附子」鑑賞ガイド（登場人物やあらすじ等を紹介） ② 狂言「附子」の上演 ③ 「柿山伏」鑑賞ガイド（登場人物やあらすじ等を紹介） ④ 狂言「柿山伏」の上演 ⑤ クイズコーナー○ ⑥ 狂言をみんなで演じよう！「菌（くさびら）」の共演○ ⑦ 質問コーナー○ ⑧ 感想発表 ※○は児童・生徒の共演、参加、体験 ※別添あり	
公演従事予定者の編成 (1公演あたり)		能楽師狂言方4名 舞台監督1名 合計5名	

公演に当たり 必要な会場条件	・舞台の設置場所 ○ 教室 ○ 体育館								
	・舞台に必要な広さ 間口6M 奥行4M 高さ3M								
	・電源容量（主幹ブレーカー容量） 100 A								
	・暗転の要否 <input checked="" type="radio"/> 要 ○ 不要								
	・その他								
会場設営の所要時 間（タイムスケジ ュール）の目安	前日仕込み			会場設営の所要時間			時間程度		
	到着	仕込み（開始・終了）		本公演（開始・終了）		内休憩	撤去（開始・終了）		退出
	9:00	9:00	11:00	13:00	14:30	0:00	14:30	15:30	15:30
派遣について	移動方法の制約等			なし					
	運搬規模			1 tクラスの運搬車両					

ワークショップについて

内容
<p>①ご挨拶</p> <p>指導者は紋付袴で体育館に集まった児童生徒の前に登場します。狂言に関して基本的な知識と日本の文化・伝統芸能について簡単に分かり易く説明します。</p> <p>②狂言「盆山」を解説をしながら鑑賞していただきます。</p> <p>-----以下は児童生徒の身体の状態にあわせてプログラムを構成します。</p> <p>③体験</p> <p>次に体験を実施。稽古を始める前の挨拶（礼儀作法も含め）から基本姿勢と所作、動物の鳴き真似や擬音などの狂言ならではの表現法を解説と実演を交えて体験していただきます。</p> <p>④狂言「菌（くさびら）」のお稽古</p> <p>本公演で共演する「菌（くさびら）」のきのこの精を全員で練習します。指導者より所作、発声など細部にわたって稽古をし、本公演での共演に臨んでいただきます。出演の代表児童生徒は複数のグループに分かれて練習します。</p> <p>⑤発表会と感想</p> <p>練習を終えたグループごとに「菌（くさびら）」のきのこの精を発表します。</p> <p>またワークショップに参加しての感想や本公演で共演することへの意気込みなどを質問していきます。</p> <p>※別添あり</p>
体制
<p>大藏基誠（主指導者1名）</p> <p>田中惇之他1名（補助者2名）</p>

目的とする効果

昔と今の理解の深化

解説付きの鑑賞を通じて、児童生徒が狂言に関心を持つとともに、およそ700年前の日本と現代社会との違いや共通点を楽しみ発見し、歴史への興味や多様な価値観への気づきへとつなげることを目的としています。

自己表現の機会の提供

ワークショップは、児童生徒にとって自己表現の場となります。狂言の所作や言葉を体験することで、自身や感情を表現する新たな方法を学ぶことができます。

共感と協働の育成

公演やワークショップでの共演は、児童生徒同士、狂言師、教員、スタッフとの間に共感や一体感を生み出す契機となります。共通の経験や課題を共有することを通じて、互いを理解し支え合う関係の構築が期待されます。

自己成長と可能性の拡張

ワークショップは、児童生徒が自己成長や自己実現を目指す場ともなります。新たな挑戦や目標に取り組むことで、自らの可能性を広げる体験につながります。

企画全体について

当ユニバーサル公演を実施されるにあたり重点を置くポイントや工夫、対応について御入力ください。

企画のねらい

① 感覚・情緒への働きかけ

狂言のセリフ、舞や所作のリズムなどが五感を刺激し、集中力や情緒の安定に寄与します。

② コミュニケーションの促進

音や身体表現を通じて意味が伝わるため、言語の制約がある児童・生徒にも理解しやすく、友人や先生との交流のきっかけとなります。

③ 自己表現と自己肯定感の向上

鑑賞体験をもとに簡単な動作や声を出す体験を重ねることで、「できた」という達成感を得やすく、自己肯定感の育成につながります。

障害のある子供たちに鑑賞・体験してもらうために取り組む工夫		
○	視覚障害	
<p>①音による理解の強化</p> <p>事前に登場人物・物語のあらすじを解説します。</p> <p>解説付き上演（音声ガイド）を活用し、場面転換や所作を言葉で補足する。</p> <p>②触覚・身体的体験の活用</p> <p>ワークショップで面や衣装の素材、小道具（扇、鬘桶、菌の傘など）を実際に触れる機会を設ける。</p> <p>狂言の基本的な型（立ち方・歩き方）を体験してから鑑賞すると、動きのイメージがつかみやすい。</p> <p>③座席・鑑賞環境の配慮</p> <p>舞台の音がより明瞭に届く席（前方・中央付近）を優先的に確保する。</p> <p>同伴者や支援員が隣席し、必要に応じて小声で補足説明できるようにする。</p> <p>④事前・事後学習の充実</p> <p>事前学習で登場人物や舞台構造を模型や図を触って学べるようにする。</p> <p>鑑賞後に感想を音声や簡単な言葉で表現できる場を設けることで、理解を深める。</p>		
○	聴覚障害	
<p>①視覚的な情報補助</p> <p>字幕やタブレットでの台詞表示を準備し、物語や台詞の内容を同時に理解できるようにする。</p> <p>解説スライドや資料に登場人物の関係図や場面の流れをわかりやすくまとめる。</p> <p>②事前学習の充実</p> <p>演目のあらすじや主要な台詞を文字資料で配布する。</p> <p>ワークショップで所作や動きを体験し、舞台上の表現を身体で理解できるようにする。</p> <p>③振動や身体感覚の活用</p> <p>狂言のセリフや足拍子の振動を舞台近くの床や椅子で体感できるように配慮する。</p> <p>リズムを身体で感じる工夫により、音の世界を補完できる。</p> <p>④サポート体制の整備</p> <p>手話通訳や要約筆記者を配置し、舞台前後の解説を理解しやすくする。</p> <p>鑑賞後に質疑応答や交流の時間を設け、理解を深めるとともに体験を共有できるようにする。</p>		

○	肢体不自由	
<p>①身体動作に依存しない鑑賞体験の提供</p> <p>動作参加型のワークショップは、立位や大きな身体の動きを必要としない内容に工夫する。 手の動きや表情、声の出し方など、可能な範囲で表現できる方法を用意する。 鑑賞前に舞台の構造や所作の意味を解説し、視覚や聴覚で理解できるようにする。</p> <p>②補助機器・教材の活用</p> <p>車椅子でも操作可能な小道具や触覚教材を用意する。 舞台模型や動画を事前に見せ、舞台の構造や動きを理解してから鑑賞に臨む。 触覚や聴覚で補完できる教材（音響・振動など）を活用する。</p> <p>③サポート体制の確保</p> <p>介助者、教師、スタッフが近くで支援できる体制を整える。 体験活動やワークショップでの補助を行い、本人の参加意欲を尊重する。</p>		
○	病弱	
<p>①鑑賞時間・休憩の配慮</p> <p>長時間の座位や集中が負担にならないよう、鑑賞時間を短縮したり、途中で休憩を設ける。 体調に応じて、鑑賞開始・終了時間の柔軟な調整を行う。</p> <p>②座席・環境の配慮</p> <p>車椅子やリクライニングチェアなど、体調に合わせた座席を確保する。 空調や照明の調整を行い、快適な環境で鑑賞できるようにする。</p> <p>③映像・音声教材の活用</p> <p>体調により会場での鑑賞が難しい場合、事前に録画や音声資料で演目を紹介し、理解や興味を深める。 鑑賞時に座席を移動するのが困難な場合、舞台の状況をモニターやスクリーンで補完する。</p> <p>④個別対応の体制</p> <p>体調の変化に対応できるよう、保健室や教員、スタッフが近くに待機する。 ワークショップ参加時も、無理のない範囲で動作や発声ができる内容に調整する。</p>		

○	知的障害	
<p>①事前学習・説明の工夫</p> <p>演目のあらすじを簡潔な言葉やイラストで事前に紹介する。 登場人物や舞台の動きをわかりやすく解説し、場面の理解を助ける。</p> <p>②視覚・聴覚・身体体験の活用</p> <p>舞台上の動きや衣装、小道具を見たり触れたりして、物語や所作を感覚的に理解できるようにする。 可能であれば簡単な舞や動作をワークショップで体験し、鑑賞内容との関連を実感させる。</p> <p>③集中力や理解度に応じた環境配慮</p> <p>鑑賞時間を短めに区切る、途中で休憩を入れるなど、集中を持続させやすい環境を整える。 舞台や音の強弱、解説タイミングなどを工夫して、注意が散漫にならないようにする。</p> <p>④感想・表現活動の支援</p> <p>言葉や絵、簡単な動作で感想を表現する時間を設けることで、理解度の確認と自己表現の促進につなげる。 教員や支援員が補助しながら、肯定的な体験として定着させる。</p>		
○	その他	
<p>ワークショップ、本公演での急な変更などあった場合でも臨機応変に代替え案を提示します。</p>		
協力・連携機関及び団体内における専門員の配置等及び団体内における専門員の配置等		
<p>本事業の参加予定の大蔵流狂言師は全員特別支援学校でのワークショップ経験があります。 簡単な手話やジェスチャーを使いながらの解説等を交えて児童・生徒には鑑賞、体験してもらいます。 障害により手話通訳者、音声ガイドなど必要に応じて対応します。</p>		

本公演の様子



『附子』



『柿山伏』



解説



共演『菌』

ワークショップの様子



『盆山』



稽古初めの挨拶



共演のリハーサル

特別支援学校等で実施の様子



【令和8年度学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業－ユニバーサル公演－実施条件等確認書（No.1）】

ID *	UNI8_13	企画名	身体で感じる伝統芸能「大蔵流子ども狂言」		
制作団体名	株式会社アンエンターテインメント			公演団体名	大蔵流狂言

① 会場条件等についての確認

項目		必要条件等						応相談
控室について	必要数 *	不要	条件	下手舞台袖を控室とします。				－
前日仕込みについて *		なし	補足					－
搬入について	来校する車両の大きさと台数 *			バン	1台	乗用車	1台	－
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細							
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ							－
	搬入車両の横づけの要否 *			不要				－
	横づけができない場合の搬入可能距離 *			問わない				－
	搬入経路の最低条件							
	理由							
	設置階の制限 *			問わない				可
	搬入間口について 単位：メートル	幅	2m	高さ	2m	可		
会場設営について	舞台設置場所 *		体育館のステージ上				可	
	舞台設置に必要な広さ 単位：メートル	幅	7m	奥行	4m	高さ	3m	可
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保 *			要			可
		舞台袖スペースの条件 *			下手 着替え／出ハケ			不可
		緞帳 *	不要		バトン *	要		可
	遮光(暗幕等)の要否 *		不要	理由				－
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は 経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動 *	要	※指定位置は会場設置図面 にて御確認ください。			可	
		ピアノの事前調律 *	不要			－		
	フロアを使用する場合の 条件	バスケットゴールの設置状況 *		格納されていれば可			－	
	公演に必要な電源容量		条件なし	※主幹電源の必要容量			－	
	その他特記事項							応相談

②会場図面(表記単位：メートル)

搬入間口について	幅	2	高さ	2
搬入車両の横づけの要否		不要		
横づけができない場合の搬入可能距離		問わない		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

